

2 子どもの思考の流れに沿った単元構成って？



どのようにすれば、子どもの思考の流れに沿った単元が構成できるかを知りたいです。(5年経験者の声)

まず、教材研究を基に、この単元でどのような資質や能力、態度を身に付けさせたいかを明らかにし、単元目標を設定します。そして、その目標が実現されるように、具体的な指導や評価の計画を立てます。

教材研究で明らかになった指導内容に基づき、子どもの実態を把握した上で、単元を構成することが重要です。



指導内容に基づいた子どもの実態把握

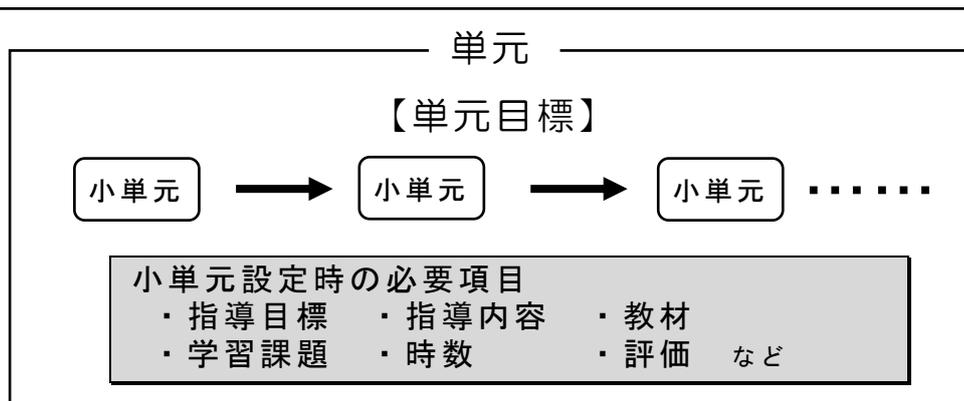
子どもの何をどう把握すればよいか曖昧になり、「明るく元気で、男女の仲がよい。」など、生活上の実態や子ども同士の関係からの把握だけにとどまっていますか？

次のような視点を持って、子どもの学習状況を把握しましょう。

- 指導内容に関する一人一人の子どもの興味・関心や学習到達状況
- 学級において学習状況が不十分な指導内容とその原因

子どもの思考の流れに沿った単元構成と指導計画

単元目標の実現を目指して、指導内容を配列したり、時間を配分したりします。



- 小単元は必然性のある流れになっているか。
- 重点化する指導内容について、十分な時間を掛けて指導できるように時間を配分しているか。
- 子どもの思考の流れが、最終的に単元目標の達成につながっているか。

子どもの学習状況を的確に把握するための評価計画

評価は、目標がどの程度まで実現されたかを子どもの学習状況から把握するものです。そして、その評価に基づいて、教師は指導の過程や評価方法を見直し、より効果的な指導が行えるよう工夫改善を図っていきます。これが、「目標と指導と評価の一体化」の考え方です。

Q. 何のために前もって評価計画を立案しておくのでしょうか？

A. 前もって計画しておくことで、効果的・効率的な評価ができます。

評価時期や評価方法を事前に計画しておくことにより、バランスよく総合的に判断することができます。評価すべき点を見落とししていないか確認するだけでなく、必要以上に評価機会を設けて多大な時間を要するような事態を防ぐことができます。

A. 小单元ごとに目指すべき学習状況における子どもの姿を具体的に想定し、評価規準として設定することで、教師の指導方法が明らかになります。

子どもの姿がイメージできると、単元・授業の構想も、より具体的になります。また、想定していなかった子どもの姿が現れた時には、教師の評価観そのものを改善する機会となります。

【評価規準の設定方法】

- ① 各観点に即して実現が期待される子どもの姿が、単元のどの場面のどのような学習活動において、どのように実現されるかをイメージする。
- ② 実現が期待される子どもの姿について、実際の学習活動の場面を想起しながら、「育てようとする資質や能力、態度」と「指導内容」に照らし合わせて具体的に記述する。

評価規準は、単元の学習活動に先立って、子どもに分かりやすく説明しましょう。そうすることによって、活動の方向性や目標が明確になり、子どもは、単元途中に学習活動の自己点検をしたり、単元終了時に自らの成長を実感したりすることができます。

参考：国立教育政策研究所『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』

単元構成及び指導計画・評価計画は、立案すれば終わりではありません。子どもの学習状況を的確に把握し、実践を通して工夫改善していくことが大切です。